

# 被害届

平成 29 年 1 月 10 日

届人住所: 千葉県 [REDACTED]

名前: 田中光子

電話番号: [REDACTED]

私、田中光子は平成 21 年頃、友人、中村久美子さんにいい話があるといわれ日暮里の事務所に連れて行かれ、山本一郎会長(以下、会長)を紹介されました。そして、会長から(株)競球ホールディングの事業内容の説明をされました。内容は大きな玉を何個か坂の上から転がして順位をつける、例えば競馬の馬の代わりに球を転がすということで、それをある場所で行っていて出資した人に利益を配当するということでした。今、この(株)競球ホールディングを国に申請しており、国会議員の石破大臣や元、国会議員の笹川 堯さんが協力してくれている最中で近々認可が下りると話されました。事務所には石破大臣と笹川さんの大きなパネル写真が立派な額縁に入れて飾ってありました。私は初め半信半疑でしたが、このパネル写真の国会議員が協力しているという話で(株)競球ホールディングが正当な投資事業であるという気持ちになりました。友人の中村久美子さんからの強い勧めもあり、まずは投資として 30 万円を預けました。

その後、友人と日暮里の会長の事務所に行く度に色々な話を聞きましたが、ある日、会長から何年か前に刑務所に 11 年入っていたことが判りました。信頼していた投資を始めたのに、いきなり怖くなりましたが、それを会長が察したのか、会長から自分は全く悪くなく国家警察の権力で潰されたから、今度はこの正当な投資をやって、協力者を幸せにして国と警察を見返してやるんだと説得されました。そのために是非とも協力してほしいと会長自身の身の上話をされました。会長は離婚され、家もなく事務所に寝泊まりして協力者のために頑張っている様子で、今思うとお情け頂戴の話でした。それに乗ってしまい、私は会長が気の毒になってしまい、何とか会長の助けになって、この事業が上手く行くようにと会長のお手伝いを始めました。

そのうち会長は私を(株)競球ホールディングの看板のような存在にし始め、説明

会や何かある度に、家庭の主婦が多額の収入を得ている人と私を紹介するようになりました。私は全くお金を得ていないのにと抗議しましたが、すぐに入るから問題ないと言い包められてしまっていました。

平成 22 年 10 月末に会長から、看板塔のようにになっている私に対して絶対に迷惑はかけない旨を話され、今まで全く配当金も受け取らずにいて配当金額も増えているため、その担保として 3 千万円の借用書を書いてくれました。この借用書は会長の実印を押してあるから心配はいらぬし、必ず早く払うようにするからと安心させるためと配当金を今すぐ請求させないためだったと思います。この頃は、会長は「俺を信用して、俺の言う通りにしてくれ」と巧みな話術に私はすっかり信用して言われるがまま協力していました。

そのうちに資金不足で配当金が足りなくなった時は、度々お金を貸してくれと催促されました。3 千万の借用書もあり、後から返して貰えと会長を信じて疑いもしなかったため、約 1 千万円(別紙参照)を投資とは別に貸しました。

会長は平成 27 年 4 月に (株)招金という会社を設立し、私を会社の代表にしました。その理由は今まで私が出資したお金の配当を全く貰っておらず、会長に個人的に貸したお金も払って貰えず、担保の借用書のお金も払って貰えずいたため、新たな会社の収入は私の通帳に入ってくるようにするためでした。ところが通帳もカードも会長が握っており、私にはいくら入っているのか全く教えてもらえず、お金も一切おろすことも出来ませんでした。しかし、会長はその私名義の通帳を投資で来ている人や説明を聞きに来た人達に見せ、田中光子はこんなに配当金をもらって稼いでいると悪用していたことが判りました。

出資者達には(株)競球ホールディングの認可がやっと国から下りたという話をして、今度は本格的に事業を拡大し、もっと配当が受け取れる話をして出資者が増えました。

そして、日暮里から浅草のビューホテルそばのビルを購入し、事務所が移転しました。当初、私の田中光子の名義で購入しましたが、6 か月後ほどで知らないうちに名義は変えていたのが判りました。

その後、平成 28 年 1 月に会長は事務所が強盗に入られて 2 億 4 千万円を盗まれたと犯行ビデオを投資者に見せ始めました。それで配当金を払わないための策略でした。後からよく考えると、もし、本当に何億もの盗難事件であればテレビや新聞のニュースに出るはずですが、この見事に納得させてしまう話術で強盗にあったと信じてしまいました。過去にも何度も事務員に持ち逃げされて 5 千万円程被害にあっていると嘘の話をして投資者を騙しては配当金の支払いを払わずにいました。

平成 28 年 12 月初めに私宛にさいたま地裁から呼び出し通知が来ました。加害者は山本一郎、館キンペイ(中国人女性)、原田竜一(会長の息子)、田中光子でした。私は会長に平成 27 年 10 月に (株)招金の代表を辞任希望し、名義を外してもらうことを書面にて提出しました。ところが実際には平成 28 年 3 月にやっと手続きをしたようで半年ほど、そのままになっていました。

会長は(株)競球ホールディングと(株)招金の両方で大勢の出資者から多額のお金を集め、配当金も払わず、結局は詐欺だったと思います。

私はこの投資事業には会社側の経営には一切かかわっていないにも関わらず、会長にこの二つの会社に名前を使われ、利用されました。今までの貯金もすべて騙し取られてしまいました。何とか投資したお金を回収しようとしていた矢先に加害者として告訴されてしまいました。

私は山本一郎に対して、投資者に投資した額だけでも支払って欲しく、自分の行ったこと責任を取って貰うことを望んでおります。